

「第 7 回・第 8 回県民フォーラム意見報告書」の概要

「水源環境保全・再生かながわ県民会議」では、直接県民の皆様から幅広く意見を収集すること等を目的に「県民フォーラム」を開催してきました。このたび、平成 21 年度に開催した 2 回の県民フォーラムについて、参加者の意見等を取りまとめた報告書を作成しました。

○ 県民フォーラム開催状況

(1) 第 7 回横浜・川崎地域

日 時 平成 22 年 1 月 26 日 (火) 18 : 30 ~ 20 : 30

場 所 横浜市開港記念会館 講堂

参加人数 205 名 (参加者意見 55 件)

(2) 第 8 回湘南・県央地域

日 時 平成 22 年 2 月 27 日 (土) 13 : 00 ~ 16 : 00

場 所 藤沢リラホール

参加人数 131 名 (参加者意見 71 件)

○ 意見の概要

(1) 森林の保全・再生事業に関すること

ア 間伐材の利用促進など、林業がビジネスとして成り立つような制度の整備を行ってほしい。安定的な収入を得られるよう準公務員のような制度についても検討してほしい。

イ 日本の森林は水資源保全にとって大切な資源であるという視点に立ち、現場の声をもっと取り入れ、正しい間伐方法について研究するなど、かたよった森林づくりにならないようにしてほしい。

ウ 森林塾の積極的な P R などにより、森林再生に向けた人材の確保を進めてほしい。

エ 市町村への助成金事業など、行政が実施する事業のチェックができるようなマニュアル作りを進めてほしい。

オ 路や柵の整備・維持管理方法をもっと改善してほしい。

(2) 水源環境への負荷軽減事業に関すること

ペットボトル水の多量な流通や水道局の高度処理は環境への負荷や費用がかかる。行政はもっと中長期的な視点に立ち、河川水や地下水の改善・保全に取り組んでもほしい。

(3) 情報の提供・理解の促進に関すること

ア 事業実施箇所への看板の設置、市民活動のイベントの広報、メディアなどによる周知・啓発など、県民にもっと P R してほしい。

イ 水源環境に対して、県民が気軽に参加し関心を持つことができるよう

な身近な取組について検討してもらいたい。

ウ 事業実績や目標達成度については、整備面積・整備率・予算の執行状況を示すだけでなく、効果を示すような資料を用いて説明を行い、県民が理解できるような方法でより広く公開してもらいたい。

エ 県民に理解を深めてもらうため、県民と行政の役割を明確化してもらいたい。

(4) 環境教育に関すること

環境学習を学校教育（カリキュラム）に取り入れることや、県民が水源地域を視察できる機会を作るなど、積極的な環境教育を行ってもらいたい。

(5) 市民活動への支援に関すること

ア 市民のボランティア活動や活動団体に対して、行政の支援が必要である。

イ 生物多様性の大切さを理解し、協働していく方法について検討してもらいたい。

(6) 県外対策に関すること

県外上流域への対策として、水源環境保全税の県外投資を検討し、山梨県や静岡県と協力して水源環境整備に努めてもらいたい。

(7) その他

ア フォーラムに参加して、水源林の管理や生物多様性のことなど、水源環境保全・再生の取組について知ることができて良かった。

イ 環境保全に関しては、様々な方向からの取組とともに、調査研究にも力を入れてもらいたい。

ウ 生態系の観点に立ち、適切な調査や取組を行ってもらいたい。

エ シカ対策及び捕獲したシカの活用方法について検討してもらいたい。

平成22年 5月31日

神奈川県知事 松沢 成文 殿

水源環境保全・再生かながわ県民会議

座長 堀場 勇夫

平成21年度の県民フォーラム意見について（報告）

当県民会議では、平成21年度に水源環境保全・再生かながわ県民フォーラムを2つの地域（第7回：横浜・川崎地域、第8回：湘南・県央地域）で開催し、県民への水源環境保全・再生施策の周知とともに幅広い県民からの意見収集に努めてきました。

このたび、平成21年度における2地域の県民フォーラムの概要並びに収集した意見を別添のとおり取りまとめましたので報告します。

知事におかれましては、当報告書の県民意見を水源環境保全・再生施策に反映させることについてご検討いただくとともに、質問事項については県民会議を通じて回答してまいりますので、県としてのご回答をお願いします。

第7回・第8回

県民フォーラム意見
報告書

平成21年度

平成22年5月

水源環境保全・再生かながわ県民会議

平成21年度 県民フォーラム意見について

1 はじめに

「水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」(以下「県民フォーラム」という。)は、水源環境保全・再生の取組について、県民の意見を幅広く収集するとともに、水源環境保全・再生に係る情報の提供・発信等を目的に「水源環境保全・再生かながわ県民会議」(以下「県民会議」という。)が開催するものである。

平成19年10月から平成20年7月にかけて県内5箇所にて順次開催し、平成21年2月11日には総括的県民フォーラムを開催したところである。参加者からの意見を取りまとめ、平成19年度分、平成20年度分、及び総括的県民フォーラム分の3回に分けて知事に対して報告を行ったところ、平成19年度分については平成20年9月11日に、平成20年度分については平成21年3月27日に、総括的県民フォーラム分については平成21年8月3日に県から報告に対する回答を受けている。

このたび平成21年度に開催した2回の県民フォーラムについて、参加者からの意見を取りまとめ、知事に報告するものである。

2 平成21年度県民フォーラムの結果概要

第七回	地域	横浜・川崎地域	
	日時	平成22年1月26日(火) 18:30~20:30	
	会場	横浜市開港記念会館 講堂	
	企画責任者	井伊秀博 北村多津一 木下奈穂 久保重明	
	参加者数	205名	
	意見数	55件	
	内容	水源環境保全・再生施策の事業説明 パネルディスカッション コーディネーター 立教大学社会学部教授 (県民会議委員) パネリスト 日本の竹ファンクラブ代表 かながわ森林インストラクターの会理事 神奈川県交通安全自動車株式会社 渉外広報部長 川崎市立宮崎小学校教諭	県職員 萩原 なつ子 氏 平石 真司 氏 武川 俊二 氏 金子 勝治 氏 草開 朝央 氏

第 八 回	地域	湘南・県央地域	
	日時	平成22年2月27日(土) 13:00~16:00	
	会場	藤沢リラホール	
	企画責任者	岩淵聖 小林信雄 柳川三郎	
	参加者数	131名	
	意見数	71件	
	内容	水源環境保全・再生施策の事業説明 パネルディスカッション コーディネーター 東京農工大学名誉教授 (県民会議委員) パネリスト 神奈川野生生物研究会副代表 丹沢大山自然再生委員会委員 有限会社川又林業代表取締役	県職員 木平 勇吉 氏 川手 隆生 氏 羽澄 俊裕 氏 川又 正人 氏

3 県民フォーラム意見

第7回及び第8回県民フォーラムにおける個々の意見内容は資料(P4~12)のとおりである。

このフォーラムには、県担当部局職員も出席し、議論に参加していただいているものであるが、これらの意見の中で県民会議として受け止め、特に重要な事項を項目ごとに次のとおり整理したので、県施策への反映を検討していただきたい。

また、個別意見の中の県施策に対する質問については、県民会議を通じて回答するので、県民会議へご回答くださるようお願いしたい。

なお、意見ごとの末尾にある「浜1」等の番号は、資料記載の個別意見番号となっているので参照願いたい。(浜：横浜・川崎地域、湘：湘南・県央地域)

(1) 森林の保全・再生事業に関すること

ア 間伐材の利用促進など、林業がビジネスとして成り立つような制度の整備を行ってほしい。安定的な収入を得られるよう準公務員のような制度についても検討してほしい。(浜3・4、湘4・16・51)

イ 日本の森林は水資源保全にとって大切な資源であるという視点に立ち、現場の声をもっと取り入れ、正しい間伐方法について研究するなど、かたよった森林づくりにならないようにしてほしい。(浜6・7、湘7・8・9・13)

ウ 森林塾の積極的なPRなどにより、森林再生に向けた人材の確保を進めてほしい。(浜11、湘1)

エ 市町村への助成金事業など、行政が実施する事業のチェックができるようなマニュアル作りを進めてほしい。(湘8・10・15)

オ 路や柵の整備・維持管理方法をもっと改善してほしい。(湘11・12)

(2) 水源環境への負荷軽減事業に関すること

ペットボトル水の多量な流通や水道局の高度処理は環境への負荷や費用がかかる。行政はもっと中長期的な視点に立ち、河川水や地下水の改善・保全に取り組んでもらいたい。

(浜17)

(3) 情報の提供・理解の促進に関すること

ア 事業実施箇所への看板の設置、市民活動のイベントの広報、メディアなどによる周知・啓発など、県民にもっとPRしてもらいたい。

(浜19・23・24・26、湘27・28・29・30・36・37・39)

イ 水源環境に対して、県民が気軽に参加し関心を持つことができるような身近な取組について検討してもらいたい。(浜16・21・35、湘32)

ウ 事業実績や目標達成度については、整備面積・整備率・予算の執行状況を示すだけでなく、効果を示すような資料を用いて説明を行い、県民が理解できるような方法でより広く公開してもらいたい。(浜25、湘26)

エ 県民に理解を深めてもらうため、県民と行政の役割を明確化してもらいたい。

(湘35)

(4) 環境教育に関すること

環境学習を学校教育(カリキュラム)に取り入れることや、県民が水源地域を視察できる機会を作るなど、積極的な環境教育を行ってもらいたい。

(浜28・29・30、湘5・40・41・42・43・44)

(5) 市民活動への支援に関すること

ア 市民のボランティア活動や活動団体に対して、行政の支援が必要である。

(浜33、湘49)

イ 生物多様性の大切さを理解し、協働していく方法について検討してもらいたい。

(湘45)

(6) 県外対策に関すること

県外上流域への対策として、水源環境保全税の県外投資を検討し、山梨県や静岡県と協力して水源環境整備に努めてもらいたい。(浜37・38・40・41、湘52・55)

(7) その他

ア フォーラムに参加して、水源林の管理や生物多様性のことなど、水源環境保全・再生の取組について知ることができて良かった。(浜52、湘57)

イ 環境保全に関しては、様々な方向からの取組とともに、調査研究にも力を入れてもらいたい。(湘14)

ウ 生態系の観点に立ち、適切な調査や取組を行ってもらいたい。

(湘15・53・54・55)

エ シカ対策及び捕獲したシカの活用方法について検討してもらいたい。

(湘61・62・63・64・65・66・67・68・69・70・71)

第7回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横浜・川崎地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載
1		林業従事者の労働災害事故（転落、滑落、下敷き）は後を絶たないが、ボランティア従事者が事故にあった際には、十分な補償は得られるのだろうか。	
2		ボランティアによる活動について、楽しくとか、なだらかに、緩やかに、とか表現していた。それはそれで良いが、 森林整備手法にも新技術、新方法が開発されている。それもとり入れたらどうか (1) 皮むき間伐とかの新技術 (2) WEBGISとかの森林調査方法 活動の「アウトプット=成果」を「見える形=データ化・数量表示」としても知ることができれば、「達成感」が現実的になる。	
3		本来は、林業がビジネスとして成り立つことが望ましいのではないのでしょうか。現状では市民活動に依存せざるをえないと思いますが、林業のビジネスとしての再生のビジョンがあれば、なおよいと思いました。	(1)ア
4		間伐材、国産材の需要が増える様、制度の整備を願います。	(1)ア
5		【竹林整備の地域の選定】 中井町、愛川町は神奈川県としての水源地に相応しいのでしょうか。 このフォーラムの目的に合致していない。 桂川地域の竹林を対象として活動することは考えるべきではないのでしょうか？ もちろん、竹林整備が大切であると考えます。	
6	森林整備等関連項目	・東京都在住なので、貴県の水資源について実感がわかないのだが、水資源保全是大切な活動だと思う。 ・日本の森林を水を得るために外国企業が買収を計画していると聞いたことがある。この面は日本の大事な資源なので他国に権利が渡らないことを願います。	(1)イ
7		水源環境保全活動ということですが、大きな意味では、健康な森というのは、動物達の生々とした生活も必要なのではと思います。 森林作りに、広葉樹や実の成る木をもっと沢山植林をして、かたよった森林づくりにならないようにして欲しいと思います。	(1)イ
8		森林パートナー制度を増やす。	
9		"現地現物"主義で現場を重視して欲しい。	
10		【平成19・20年度事業実績のうち14ページ 5.地域水源林整備の支援 について】 予算執行状況の大幅超過の要因として「森林所有者の自主整備への市町村補助方式」から「市町村が自ら森林を整備する方式」を採用する市町村が多くなった為に事業費が大幅に増えたとあるが 質問1.当初想定していた方式ではなく、市町村が自ら整備する方式に選択が増えたのはなぜか？やむを得ないのか？ 質問2.方式が想定外に片寄るとなぜ支援額が増えるのか。 質問3.今後の予算修正はあるか？	
11	やってみたい人・特に団塊世代の男性の力を結集できると力強い。 森林塾のPRをもっと多く行い、マンパワー作りにつなげて下さい。	(1)ウ	
12	【森林整備に必要なマンパワーを増やすには】 人手が足りないと聞いています。 プロの林業家、セミプロの森林インストラクターやNPO法人、気持はあるが実作業に参画出来てない一般の人々これらのグループがどんなかわり方が出来ると必要なエリアに技術・技能のある十分なマンパワーが確保できるでしょうか？ 武川さんのキャリア、実体験を通じて思っていることを教えてください。		
13	一度破壊された自然（環境）はなかなか元には戻らない。荒廃する前に保護・保全すべき。		
14	【相模湖の湖沼指定について】 相模湖の湖沼指定について、近々パブリックコメントの募集が国レベルで予定されていますが、県としてどのような取組を予定していますか？また、湖沼指定についてどのように考えますか。		
15	再生に関しての活動は今後広がっていくように思えました。今後は汚濁源の抑制対策に関する活動が広がっていくことを期待しています。		
16	水源環境への負	【身近な水環境の改善について】 身近な小川や水路などで生態保全型に整備し直したり、自然浄化を進めるような設備を作っていくことは、実際の効果は限定的だと思うが、市民に関心をもたせるきっかけや教育効果は非常に大きいと思う。 今後も進めるとともに案内板なども整備してはほしい。また、それらの設備でメンテナンスが必要な場合、専門業者に任せるのみならず、容易なものは学生・生徒のサークル活動や会社・労組・市民団体等のボランティア活動に任せていくと、直接かかわることで、より深く関心を持つ人が増えると思う。 水源林の整備と同じ考え方で。水なので、あまり素人では危ないかもしれませんが。	(3)イ

第7回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横浜・川崎地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載
17	項目 軽減	<p>【安全な(?)飲み水について】</p> <p>近年はおいしい水や体に良い水などとして、PETボトル水が多量に流通したり、水道局でも高度処理をPRしたりしているが、どちらも、余分な資源やエネルギーを使い、廃棄物も出す。</p> <p>行政はどっしりと中長期的な視点に立って、河川水や地下水の改善・保全に取り組み、それが、子や孫の代のおいしく安全な水につながっていくと説明してほしい。大義があれば、少々の税負担等は理解される。</p> <p>PETボトル水や高度処理が声高にPRされる状況は環境負荷やコストを考えると理性的でなく、商業主義の印象が強い。</p> <p>行政、特に自然対象の取り組みは長期的視野でじっくり取り組んでほしい。</p>	(2)
18		相模湖、津久井湖の湖沼指定に向けて県としても国に積極的に働きかけて欲しい。	
19		<p>【「事業実績」の説明内容について】</p> <p>事業実績あるいはその内容について県のHPで見ることが出来るとのことだが、具体的なアクセス（検索のキーワードは何か？）方法を知りたい（探したことがあるが見つからなかった）。</p> <p>事業内容の結果報告を県民に広く公開しているのかどうか、その方法は？。事業実施現場に於いて、看板などでアピールすることは当該税の使途を目に見える形で現わす機会ではないでしょうか。</p> <p>実績の評価は誰が、どのように行なっているか？</p> <p>（また、事業仕分けの手法～公開も含めて～を実施しているか）</p>	(3)ア
20		水源を外国ファンドに買われている？とか。水源環境と同時に「水は只でない」事を訴え、「守る」ことを考えねば。 利権化してはいけない。	
21	情報 提供 ・ 啓発	大きな活動として、森林保全や下水道・浄化槽整備は大切だが、水環境に関心を持たせる小さな活動として、身近な用水路の浄化など（できれば市民参加で）も大切だと思う。また、近年、水路が暗渠化されているが、魚や水草が見えれば、まだ身近な水辺と感じられるが、見えなくなると、全く関心外になってしまう。身近な水環境に関心を持たせていく施策も必要だと思う。	(3)イ
22		モニタリングの拡充。 効果の普及啓発。	
23		県民にもっとPRして行って欲しい。	(3)ア
24		水源環境保全・再生の市民活動のイベントの広報にもっと力を入れることで、活動を市民に広げることが出来るものとする。 (現在の広報の仕方では各団体のイベントに興味を持っている人しかアクセス出来ない)	(3)ア
25		超過課税を含めた保全・再生事業の実施/計画内容について一般県民が理解出来る様な方法でより広く（努力しなくても伝わる様な発信を)公開して欲しい。	(3)ウ
26		もっと県民に対するPRが必要である。 時間通りの進行、立派。 県民会議が傍聴可能をPRすればよい。	(3)ア
27		施策大綱のP10の相模原浄水場の入水は相模湖でなくて飯泉なのでしょうか。Web上では現時点では誤りですか。	
28		特に、川崎市立宮崎小学校の例のように、子供のころから大いに水源環境保全の大切さの認識を体験的に広げて行っていただきたい。	(4)
29	環境 教育	宮崎小学校の発表は注目したい。子供たちの森の環境教育、これこそ今日的な本物の教育であり、将来の水源環境保全の担い手育成であると感じた。総合学習が採用されたとき、多くの学校は山をこれからの教育の場と考えていたので。	(4)
30		【水源環境保全税の活用について】 一般、環境教育（一般・子供）にも助成金を	(4)
31		竹ファンクラブは活動サイトが神奈川県の水源保護林のエリアから、はずれている。これに水源税を支払うことは問題であると考えます。	
32		NP0で昨年まで10年ヤブツの森で森林作りを行ってきたが同一団体の契約継続が出来ない規則で今年は手入が出来なかった。8月現地訪問したら鹿の侵入で1/3の木が被害があり、下草も食害がひどい状況でした。たった1年もみたくない期間の放置で大切な森作りが後退するのは残念です。NP0でも真面目な活動する団体について正しい評価と継続を望みます。	
33	市民 活動 支援	ボランティア団体のみでは活動拡大に限界があると思う。行政の支援が必要と思う。 金銭面以外でも市、町が関わっていることを地元住民が知ることが大切と思う。 地元住民はよその人達が来て、勝手に何かやっていると見ている。行政も地元住民にPRが必要。	(5)ア
34		市民団体等への支援は続けていくべきだが、惰性にならないよう注意すべき。	

第7回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横浜・川崎地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載
35	県外対策	"活動を市民に広げるために"ということですが、学生（私もそうですが）の中には環境保全に興味を持ったり、携わりたいと思っている人が意外とたくさんいると思います。学生でも気軽に参加できるような取組が増えるといいなあと思います。 本日は貴重なお話をありがとうございました。	(3)イ
36		・企業には環境活動の安定性（継続性）をどうすれば確保できるか。 ・企業とボランティア団体（市民グループ）の出会いの機会を広げるにはどうするか。 行政が仲人となれるか。資金的な支援もできるか。頼りすぎにならないか。 全体として伸ばしていけるとよいと思う。	
37		相模川水系の上流域の大部分は県外であり、神奈川の水源環境保全を考えるなら、水源環境税の県外投資は不可欠ではないかと考えますがいかがでしょうか。（当初の想定された額より、低いのではないのか？）	(6)
38		本年4月から山梨県でも水源税が導入されるので、(酒匂川の上流の静岡県は既に導入済み)上下流の三県の協働を強化して、この事業の効果を最大限にいかしてほしい。究極的には、山静神サミットを発展させ、「山静神水源環境保全一部事務組合」や「同広域連合」にまで発展させてほしい。	(6)
39		・桂川上流の川の異常な汚さの状況をもっと知らせるべきである。 ・富士吉田、都留の住民がゴミや汚水を平気で流している。 ・両市への働きかけをもっとすべきだ。 ・桂川の奇形魚の多さも異常であり、魚の害の有無の分析も必要。	
40		県民の水がめであり、相模川水系の上流域である。山梨県の水源環境整備にももっともっと投資して下さい。	(6)
41		今回、特に印象に残ったのは、神奈川の水源が山梨にあり、山梨の人工林（私有林）のうち約60%が荒廃地であるということ。ここは神奈川と山梨で協力して解決していくべきだと思います。	(6)
42		【活動資金はどのようにしていますか】 大勢の参加者で活動していらっしゃるのでしょうか？ 活動する為には財源が年間どのくらいで？ 又、主に何に使っていますか。	
43		【会場の方々とも意見求めていきたいに関して提案】 皮むき間伐をやりませんか。 小さい子供でも、女性でも、比較的簡単に安全にやれます。チェーンソーなど使わないでもやれる。皮むきした木は、1年位立ち木のまま放置すると、切るのも比較的容易、そして軽くなっているの倒した後の運搬も楽です。	
44		今回初めての出席で内容が今1つ分からないのですが、ボランティアとはいえ、お酒の方にウエイトがおかれるのもどうかと思う。もう少しまじめに考えてほしい。	
45	以前自分が飲んでる水に関心を持ち調べたことがありました。その結果自分が森林インストラクターとして活動している県西部の森林が自分の飲み水に直結していることを知り、驚きました。知らないことが多い水源環境ですが、機会あるごとに水・水源の話しを多くの方にしております。これからも森林インストラクターとしてしっかり働きたいとの思いを強くしました。		
46	普段、当たり前のように水を使用しているが、水源があつてのことなので、その水源環境保全を楽しみながら行っている方々がいることに、頭が下がります。今後の活動を応援したいと思います。		
47	【竹の間伐について】 例えばA地区の面積を間伐して整備したというが、 1.数量でいえばどれ位 2.整備したものを、どう処理したか 具体的にそれぞれの量はどれ位。 具体的な量が明らかでないなら、「成果」と、言えないのではないかと。		
48	その他	【依頼をしたい人がいたらどうすればよろしいですか？】 県内どこでも可能ですか？	
49	【活動の参加申込みについて】 どのような形で参加申込みを募っているのでしょうか？ より多くの方の参加に向けた広報の努力を教えてください。		
50	【森林整備のサイトの選定】 やどりき等の森林整備活動に敬意を表します。 各活動サイトの選定はどのように行なわれているのでしょうか？ 私有林ですか or 公有林でしょうか。 さらに、整備方針は、森林のオーナーとの合意は、どのようにされているのでしょうか？ 貴会は整備において選定基準を作っているのでしょうか？		

第7回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横浜・川崎地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載
51		【活動フィールド・学習場所を他の地域で参加希望？】 水源の学習を年間を通して行うことはたいへん重要なことと感じていますが、相模川の流域には関心をお持ちでしょうか。	
52		・このようなフォーラムに出席し実に勉強をさせて頂きました。 ・水源環境保全・再生にこのような分野がある事、あつく熱心な方々に感動。	(7)ア
53		県域の様々な団体・個人に活動がゆっくと拡大しており、将来に期待しています。ただ、個別の自然愛好の気持と、水源環境を保全するには総合的な視野が必要でその連携が不可欠との課題をどのように繋げていくのか、その点を考えざるを得ないと思います。個別性と全体性の両方が大事。	
54		毎日、水が使えるありがたさを感じた。	
55		県からの説明の後に質問の時間がほしかった。 アンケート用紙への記入は面倒。	

第8回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（湘南・県央地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載
1	森林整備 (人材)	【森林・山地整備の技術、技能の確保・伝承について】 森林・山地整備でも、特に中標高地の保全には高度な技術が必要と思われます。その技術を持っておられる方々について 現状の技術者数は？ 川又先生、385人？OKでしょうか 今後の確保の見通し、将来展望方策について 都市、地域を総合した視点に立脚した考え方の必要性	(1)ウ
2		【森林整備への人力投入は？】 広大な対象林にどう対処するか？ ボランティアでは無理でしょう。	
3		【かながわ森林塾について】 予算をもっと減らすにはどうすれば良いのかもっと具体的に教えて下さい。	
4		森の手入れで生活が出来るような経済的な対策が無ければ森林整備の担い手は育たない。少なくとも、家族を生活させられる収入を得られるよう準公務員のような制度を創設すべきと思う。	(1)ア
5		水源地域から遠いところに住んでいる人に担い手になってもらうのは難しいと思うので、水源地域の学校等で地域の特色を生かした教育を重点的に行い、その中から担い手が出てくるようにしていくべきと考えます。	(4)
6	森林整備 (方法)	【間伐の進み方が早いのでは？】 荒れていた森が間伐され、明るくなってきていることは評価できるが、進み方が早いような気がする。生態系のこと、土壌流出のこと、人を育てることなど総合的に見て、どうでしょうか。	
7		今回のフォーラムに出席して、税金を取る側が、何も現場の(今回のパネリストの様な方々)声を聞いていないように思った。 水源保全に必要な丹沢の再生についての正しい税金の使い方について不安を持ちました。今のやり方だったら、こんなに沢山の税金は必要ではないと思われます。	(1)イ
8		行政が森林整備をする際、むやみに木を伐っているだけのような気がする。 行政は学んでほしいし、行政を指導するマニュアルのようなものを作ってほしい。	(1)イ・エ
9		【正しい間伐法について】 無駄な間伐がかえってシカを増やすことに繋がると今日初めて知りました。正しい間伐法を研究していただいて是非行政の人を指導して下さい。行政の人は所有者を自信を持って説得し手入れしてほしいです。 清川村在住ですがなんでもかまわず丸坊主にしてしまう山を見ているととても不安です。クマタカにとって大切な時期に。	(1)イ
10		【市町村による森林の伐採について】 川手先生の発表された市町村による民有地森林の伐採はなぜ起こったのでしょうか？ 森林の伐採は事業の目的と異なると思うのですが…市町村が実施する事業のチェック機能は無いのでしょうか？市町村への助成金の実施状況を教えて下さい。またこの様な事がおこらないためにはどのような制度が必要でしょうか？	(1)エ
11	【シカ柵は有効に働いているか？】 ・尾根は 動物たちの通り道 鳥たちの通過道 ・柵は斜面に ・柵の地面から30cm位はアナグマ、タヌキが通れるようにする ・維持管理をする	(1)オ	
12	【水源林管理の径路は必要か？】 水源協定林の径路作りによる水源林の破壊を行っている。 維持管理の無い路や柵は税金の無駄遣い。	(1)オ	
13	清川村の土山峠湖の法面が最近丸坊主にされました。このまま湖に沿って全部切るのでしょうか？湖の安全の為？コンクリートで固めるのと雑木林のままとどっちが安全なのでしょう。広葉樹の間伐についてはよく分からないのならどんどん切るのは止めてほしい。切ったら戻らないよね。	(1)イ	
14	森林の保全・再生策は、シカ対策等を含めて「目に見える」けれども、大気汚染は効果の検証を含めて、手を出しにくい。 アオコは目に見えるが、アオコ発生のためにも同じで、対応を広げにくいのが難点である。しかし、環境保全に関しては、「疑わしきは罰する」をベースに様々な方向から取り組んでほしいと思う。大事な税金ではあるが、平常予算では対応しにくい「調査・研究」にも力を入れていただきたい。 また、荒れた人工放置林の場合は、大幅間伐で広葉樹を植えるか、または皆伐して広葉樹林に切り替える方法を思い切って進めて、丹沢山地全体を広葉樹主体の山にできたらいいのと思う。	(7)イ	
15	・市町村の助成金による事業の実施について新しいチェック機能を作った方がよいのではないのでしょうか？現状のチェック体制では問題が生じているわけですし。 ・広葉樹の森を切らないという考えを、水源環境保全の「基本理念」としてほしい。 ・整備の優先度を検証するためにも、生態系も含めた調査を行う必要がある。	(1)エ (7)ウ	

第8回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（湘南・県央地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載
16		・清川村に住んでいるのですが、蛭の存在が大きいせいか根こそぎ伐採、なめるように下草を刈るという状況です。 ・植林された杉、ヒノキが手入れをされていないと全く無価値だというのが勿体ないと思います。川又さんのお話は、全く同感です。燃料にしたり、建築に使ったりが出来るといいと思います。	(1)ア
17		【サルナシのツルを残して】 サルナシ、アケビ、ツルウメモドキなどツル植物もクマヤタヌキ、鳥の食べ物です。辺室山周辺などではこれらが完全に切られています。これらを程よく残しておくことは熊を山にいてもらう大事なことだと思うのですが。	
18		群馬県では、森林整備や間伐材、枝、根を利用する動きが始まった。神奈川県でも是非残置にせず、搬出、利用するよう考えて下さい。材を使わぬ手はありません。	
19	森林整備（その他）	【天然林の荒廃について】 なぜ天然林の土壌が流出してしまうのでしょうか。	
20		川又氏の話は、実際的で良かった。森と生き物と共生の大切さが重要	
21		1.再生施策の事業実績の発表がありました。目標の設定の基準とは何か？荒廃の進行とバランスで現実的に何年毎にどの程度の改善の姿をイメージしているのか。 2.シカ対策の具体策について県の対応が見えない。 3.水源林の私有率の割合は。	
22	水源環境への負荷軽減	【河川の整備について】 河川の改修があるが、みなコンクリートになっている。生物の住めない川になっている。	
23		取水口の上流の河水、および街内の川の汚れがひどい。清掃活動を市民と一緒に環境づくりを進めてほしい。	
24		・丹沢大山も大切ですが、各地の地下水を守る取組みも大切にしてほしいと思いました。	
25		河川の水質が悪くなれば海の水質も悪くなり漁業への影響も心配される。保水性の高い森を増やさなくてはならない。	
26		【事業実績状況の発表について】 事業の実績状況は整備面積や公共下水道の整備率で示していますが、目標が達成したらどの様になるのでしょうか？森林整備による保水率の向上により、降水・流出状況に変化があったのでしょうか？公共下水道が40%整備されたことにより、河川水質は向上したのでしょうか？生態系に配慮した河川・水路等の整備により水生生物の生息数は増えたのでしょうか？事業実績は予算の執行状況を示すのではなく、効果を示す方が良いと思います。	(3)ウ
27		T V神奈川やFM横浜など広範囲に伝わるようなメディアでこの水源環境保全・再生かながわ県民会議の活動や県民フォーラムの内容の広報や水源税の周知、啓発をぜひやってほしい。	(3)ア
28		・今回のフォーラムが開催されることについて。 近所の友達に尋ねてみましたが、皆様ご存知なかった！これが現状ではないでしょうか。 ・水源環境税について。 もし継続が必要であったり、増額が必要であったりするならば県民へ求めても良いのではないかと。その為にも費用対効果をしっかり示していく必要があると思う。	(3)ア
29		この手の会合をもっと数多くやってほしい。	(3)ア
30		水源の森を守ることは生き物を守ることに繋がる。 生き物の一つである人間が森を破壊している。 一人一人の意識を高めるためのPRが必要である。 自分で自分の首をしめていることに早く気付くべきである。 生き物がある森を目指すという言葉が印象的でした。	(3)ア
31	情報提供・啓発	・丹沢山に年間数万、あるいは数十万の登山者が入ります。自然林の保護のPR費用の一部として入山税...？(ヒマラヤの入山税)をいただいてはどうか？	
32		・最近のニュースで横浜の小学校で水道水がおいしくなったと聞いた。こうした水源の取組みの成果が還元されたい例だと思う。 ・ディスカッションでも出たが、関心が薄い。取り組みたいけど、どういことができるのかが分かりにくい。個々に頑張っているのは理解できるが、総合的に何に対してどういことができるのか情報があるといい。	(3)イ
33		・県民として知る努力をしたいと思います。関心を持っていききたいと思います。 ・森林教室など参加してみたいと思いました。	

第8回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（湘南・県央地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載
34		100年後の水源政策の見えるような、ビジョンをお示しいただきたい。	
35		1. 県民に対していかに理解をしてもらうことが重要であるが、県民と行政の役割を明確にしての具体的な効果を期待したい。 2. 超過課税については適性がどうかは判断出来ない。長期的な保全投資で必要と思う。	(3)エ
36		地域で森林整備、植林など興味のある人へ日頃からセミナーなど聞いて予備軍を育てる。 興味を持ってもらわないと拡がらない。 今回のお話にあったような切実感が一般の人は理解していないと思う。PRが足りないと思う。森林教室などもっとPRして参加者を増やすとよい。	(3)ア
37		もっと一般の人に対して水源環境保全・再生の取組みについて広報活動を行ってほしい。	(3)ア
38		水源環境の現状がまだ厳しいということが分かり、県民1人1人の協力が大切であることが分かりました。 更に水源環境保全を促進する為には、植樹祭などのイベントにより、人々に関心を持つことが良いのだと思いました。	
39		・ 民有林が40%もあるので、民間地主に水源環境保全を理解してもらう努力してほしい。 ・ 900万県民に対し、再度水源の現状と水源の将来像と対応策を広報してほしい。 ・ 今は、関心ある一部の県民、団体等だけが動いているだけと思う。	(3)ア
40		環境教育の必要性を感じる。学校教育(カリキュラム)に取り入れる。自治会を通じて、現状を伝え、広く県民の意識向上を。	(4)
41		・ 沢山の人に水源環境問題を知ってもらう必要性を感じました。学校教育等に取り入れることや、一般人が水源地域を視察できる機会を作ってほしいと思いました。	(4)
42		・ 森林整備の必要をPRする事が大事ですが、青少年(小、中学生)の年代から教育の一環として実施しては？	(4)
43	環境教育	【<次世代を担う子供たちへの環境教育>子供たちの体験学習の場としての森林間伐作業の場の提供について】 水源環境保全の次世代を担う子供たちの環境教育、体験教育の場として、森林の保全に伴う間伐作業を実際にできる場の提供を考えていただけないでしょうか？ 地域の活動として学校の学習として子供たちが森林に入り木を切るという体験を通して環境について考えるきっかけになるのではないのでしょうか？ 間伐されない人工林を環境教育の場としての再生	(4)
44		・ 秦野市などのように、小学校の環境教育で取り組むなど、長期の視点からも取り組むも必要。	(4)
45		生物多様性の大切さを理解し、協働していく方法を考えることが大切と考える。 水源環境の保全は神奈川県だけの問題ではなく、世界的な問題である。県としてどのように対策を考えているのか学びに来た。一個人として何が出来るのか。ボランティア等でできないかを考えていきたい。	(5)イ
46	市民活動支援	民間団体の強力な支援。 地権者(森林所有者)と、民間団体の橋渡し。 森林と水との関係をもっともっと多くの人に理解を図る。啓発活動の推進。	
47		【水源環境保全の為に市民ができること、又は市民に求めることについて】 水源環境保全の為に市民が現在できることについて教えて下さい。	
48		里山づくりボランティアに参加して三年ほどになり、体力づくりに大変良いと思っております。	
49		市民のボランティア活動や活動団体への支援(金額)が少なすぎるのではないかと。又、後払いが主で小さな団体では後払いの負担は重いのではないかと。	(5)ア
50		県を越えた対策は実際に行われているのか。	
51	県外対策	【水源地を守るために私達にできる事】 桂川・相模川流域協議会で流域材を使いましょうという話を聞きました。流域材を材木とするシステムも整ったようです。安い材材であれば使いたい人はいると思うのですが、山梨県から神奈川県への運送代がかかるので、水源税などで助成してほしい。良い方法がありますか？エコポイントもつけてほしい。神奈川県材木にも同じように考えてほしい。	(1)ア
52		上流域(山梨県)での水質保全への取組みを行ってほしい。	(6)

第8回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（湘南・県央地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載
53		<p>【クマタカばかりえこひいき？】 クマタカが食物連鎖の頂点であり、生態系の豊かさの象徴であると思うが、クマタカを大事にすることと丹沢の自然を保全することが同じことなのか？クマタカがどこに何羽いるのかも知らされないまま「クマタカがいるから」という理由で森林整備の施業に注文がつけられている。 丹沢の自然を保全した結果としてクマタカが生息しているのならわかるが、クマタカのために自然を保全するのは疑問である。</p>	(7)ウ
54		<p>【クマタカ調査について】 良好な水源林の指標であるクマタカの繁殖を森林整備によって阻害している可能性があるとのことでしたが、事業の中でクマタカ調査を行っていないのはなぜですか。</p>	(7)ウ
55		<p>これまで8回のフォーラムの内5回参加しましたが、それぞれの回でテーマを持って進められているので取組みの現況を知る事が出来ています。感想としては、パネリストはその道のプロの方が出て取り組み紹介されている。 県民会議メンバーの方はどのような活動をされているのでしょうか。今回の生態系の観点からの取り組みは遅れているように感じる。 水源の森について。公有林、私有林をどう整備していくか良く見えてこない。 相模川は山梨県、酒匂川は静岡県との連携が重要。 県民会議の方、次回のフォーラムに期待しています。</p>	(6) (7)ウ
56		<p>森を中心とした環境連鎖があることを知った。</p>	
57		<p>私達が日常余り意識していない水源管理に関して、水源林の管理や生物の多様性を保つための取組みなど、知らない事が沢山あることが分かり、このフォーラムに参加して大変に良かった。 行政の方の説明が早いので、もっとゆっくり話した方が良かったと思う。川又パネラーの話方は、ゆっくり話して頂けて、解かり易いと感じました。</p>	(7)ア
58		<p>【「森林づくり公社の解散」と水源環境保全・再生事業(20年、5ヶ年)との関連について】 公社解散に伴い発生する県の債務肩代りや事業肩代りによる膨大な費用は「水源環境税」の本来の活用にくい込むことがまったくないのか？心配です。教えてください。</p>	
59		<p>県職員の最初の説明「公社の解散」が260億の負債を残したそうだが、5分の説明では何も分からない。県民の税金190億と260億の負債処理はどうバランスするのか。知事の「公社解散」のいきさつは納税者にきちんと説明すべきである。 県単位で税を集めてやる分野ではない。国の長期目標の中で自治体は何をすべきかの視点がないと効果は全く期待出来ない。</p>	
60		<p>・神奈川県の水道行政の先見性の成功例にならば、森林保全にも専門家の意見を聞き、現実を直視し、改めることは改めるべきだ。</p>	
61	その他	<p>【シカ肉を食べる方法】 地産地消で何とかありませんかねえ。ディスカッション願えませんか？</p>	(7)エ
62		<p>【シカの適正な数とはどのように算出しますか】 シカが多いというのは全国的に問題になっていますが、実際どの程度が適当なのか、どのように算出されるのか教えてください。</p>	(7)エ
63		<p>【シカ問題について】 シカとバランスをとり共存を目指すということは理解できましたが、現状多くなりすぎたシカを一気に減らす方法などは無いのでしょうか。昔のように大雪が降って減っていた時代のこと考えると、大量に減らしてバランスをとる時期があってもよいのではないかと考えるのですが。</p>	(7)エ
64		<p>【シカ害対策としての「生態系管理」について】 お話の最後に結論づけられた上記の管理について行政、関係団体等官・民の望ましい関わり方の方向を教えてください。</p>	(7)エ
65		<p>【シカの管理と森林管理について】 森林の間伐をしてもシカの管理をしないと成果が期待できないとの事ですが、どうしたら良いのか。もう少し詳しく説明して下さい。</p>	(7)エ
66		<p>【鹿対策】 ・鹿の効率的な捕獲方法。狩人の高齢化。 ・捕獲後の流通方法まで</p>	(7)エ
67		<p>・シカ牧場等で頭数管理を行っては(動物園を兼ねて)</p>	(7)エ
68		<p>【シカの個体数管理について】 猟師によるシカの頭数管理はあと5年～10年くらいしかできないということですが、今後はどのようにしてシカの個体数を減らしていったらよいのですか。</p>	(7)エ
69		<p>【捕獲したシカの活用について】 捕獲したシカを現代でも活用するアイデアは何かお持ちですか？</p>	(7)エ

第8回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（湘南・県央地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載
70		<p>【シカは神奈川だけの問題ではない！新たな捕獲方法は？】</p> <p>シカは県境を越えて移動するので、神奈川だけで対策をとるより、広域的な管理が必要であると思うが、他県との連携体制はできているのか？</p> <p>銃器による捕獲方法には限界がみえてきている。もっと安全で効率のよい方法はないものか？</p>	(7)エ
71		<p>【鹿を利用することの意義】</p> <p>江戸時代から鹿を利用し、輸入までしていた話は、興味深く伺いました。現在、年間1,500頭除去されていると聞きますが、処分後はどうされていますか。一般人にも目に見えるように利用できることが必要ではないでしょうか。</p>	(7)エ

第7回 (横浜・川崎地域フォーラム)

水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム

これからの水源環境への取組を考える～市民グループ・企業の立場から～

日 時：平成22年1月26日(火) 18:30～20:30

場 所：横浜市開港記念会館 講堂

～ プログラム ～

18:00 開 場

18:30 開 会

主催者あいさつ

水源環境保全・再生かながわ県民会議副座長 新堀 豊彦



水源環境保全・再生
イメージキャラクター
しずくちゃん

18:35 水源環境保全・再生施策 平成19・20年度事業実績
神奈川県 水源環境保全担当課長 星崎 雅司

19:00 パネルディスカッション

「これからの水源環境への取組を考える～活動を市民に広げるために～」

各パネリストから活動報告を行ったのち、これからの水源環境への取組について、会場の皆様からの御意見・御質問を基に議論を行います。

コーディネーター

萩原 なつ子 (立教大学教授、水源環境保全・再生かながわ県民会議委員)

パネリスト

平石 真司 (日本の竹ファンクラブ 代表)

武川 俊二 (かながわ森林インストラクターの会 理事)

金子 勝治 (神奈川トヨタ自動車株式会社 渉外広報部長)

草開 朝央 (川崎市立宮崎小学校教諭)

20:30 閉会

本日の配付資料

プログラム(本紙)、『かながわの水源環境保全・再生をめざして』、水源環境保全・再生事業説明資料、武川氏発表資料、『神奈川県トヨタ「プリウス森木会」のご案内』、質問用紙(2枚)、アンケート用紙、『かながわ水源環境保全・再生施策大綱』、『かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画』、『神奈川県水源環境保全・再生基金への寄付のお願い』、『受動喫煙防止条例チラシ』、『全国植樹祭2010パンフレット』

出演者を紹介します。

しずくちゃん



コーディネーター

立教大学社会学部教授 ^{はぎわら} 萩原 ^こ なつ子

立教大学社会学部社会学科教授。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授。博士（学術）。1956年山梨県生まれ。1988年お茶の水女子大学大学院修士課程修了。トヨタ財団アソシエイト・プログラムオフィサー、東横学園女子短期大学助教授、宮城県環境生活部次長、武蔵工業大学環境情報学部を経て、2006年4月より現職。また、2007年5月からは、県民会議市民事業専門委員会副委員長を務めている。専門は環境社会学、ジェンダー論、市民活動論。（社）環境生活文化機構理事、（特）日本NPOセンター常務理事。

パネリスト

日本の竹ファンクラブ 代表 ^{ひらいし} 平石 ^{しんじ} 真司

1999年9月、日本の竹ファンクラブ設立。「竹が彩る暮らしと文化」をテーマに、竹の保全と活用に関わる普及と実践活動、情報発信や調査研究活動などを行う。

全国各地の竹の活用事例を調査研究し「全国竹の名鑑」を発行。「竹林の里親制度」「竹の学校」「竹取協力隊」「都市農村交流事業」などを実施。著書に「全国竹の名鑑」（共著）日本の竹ファンクラブ2002、「現代に生かす竹資源」（創森社2009）、など

かながわ森林インストラクターの会 理事 ^{たけかわ} 武川 ^{しゅんじ} 俊二

1980年代よりシベリア寒帯林の保全活動に取り組む。その後、軸足を地元神奈川の森林保全活動に移し、かながわ森林インストラクターとして丹沢山域・やどりき水源林を中心に森林整備活動を積極的に行う。また、西丹沢・大野山、丹沢湖をベースとしたエコツアーや森林体験教室を実践。一連の活動を森林の保全整備事業とひとつになったものとして、都市住民と山間部住民の架け橋を担う。

NPO法人丹沢森の仲間たち会員、林業技士（森林環境、林業経営）

神奈川トヨタ自動車株式会社 渉外広報部長 ^{かねこ} 金子 ^{かつじ} 勝治

2000年1月より神奈川トヨタ自動車株式会社 中田店 店長、2005年4月よりハイブリッドカー「プリウス」の販売比率が高い同社港北ニュータウン店 店長、2007年8月より港北ニュータウン店を含む6店舗を営業部長として統括、2009年7月より現職、神奈川県が進める「かながわ水源の森林づくり」への参加協力の一環として、同社「プリウス森林会」を主幹として運営している。

川崎市立宮崎小学校教諭 ^{くさびらき} 草開 ^{ともみ} 朝央

川崎市立宮崎小学校教諭。5年生を担当し、総合的な学習で環境問題に取り組んでいる。取り組みの導入として、今年度は7月にやどりき水源林に行き、森林が命の水を生む大きな源になっていることや、森林の保護・育成に努める人々の取り組みを学んだ。

（敬称略）

【問い合わせ先】

事務局（神奈川県環境農政部緑政課）

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 電話：045(210)4324 F A X：045(210)8848

関連ホームページ「かながわの水源環境の保全・再生をめざして」

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/ryokusei/suigenkankyo/index.html>

かながわ水源環境保全

検索

水源環境保全・再生かながわ県民会議 活動結果報告

平成 22 年 1 月 26 日に開催した「第 7 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横浜・川崎地域フォーラム）」の内容は次のとおりでした。

名 称	第 7 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横浜・川崎地域フォーラム）	
	企画運営委員	井伊秀博、北村多津一、木下奈穂、久保重明
開催日時	平成 22 年 1 月 26 日（火） 18:30～20:30	
開催場所	横浜市開港記念会館 講堂	
出席者	新堀豊彦（ 1 ） 井伊秀博、岩淵聖、片山幸男、北村多津一、木下奈穂、久保重明、倉橋満知子、木平勇吉、小林信雄、高橋弘二、高橋二三代、沼尾波子、萩原なつ子（ 2 ） 柳川三郎、横田和浩 1 主催者あいさつ 2 コーディネーター	
参加者	205名	
報告者	久保重明	
内 容	<p>1 . 主催者あいさつ 新堀副座長 横浜・川崎市民が使用している水の 9 割が相模川・酒匂川から供給されている。その水を育む水源環境が様々な原因で荒れてきている。この水源環境を守るため県外上流域を含めた対策を行っていく必要がある。 このフォーラムをステップに、さらにより一層水源環境に関する御関心と御協力をいただきたい。</p>  <p style="text-align: right;">新堀副座長</p> <p>2 . 水源環境保全・再生施策平成 19・20 年度 事業実績 水源環境保全・再生事業の平成 19・20 年度実績について県・星崎水源環境保全担当課長からパワーポイントにより説明を行った。</p> <p>3 . パネルディスカッション「これからの水源環境への取組を考える～活動を市民に広げるために～」 コーディネーター 立教大学社会学部教授 萩原 なつ子 パネ リ ス ト 日本の竹ファンクラブ 代表 平 石 真 司 " かながわ森林インストラクターの会 理事 武 川 俊 二 " 神奈川トヨタ自動車株式会社 渉外広報部長 金 子 勝 治 " 川崎市立宮崎小学校教諭 草 開 朝 央</p> <p>各パネリストからの活動報告に引き続き、会場からの質問・意見等を踏まえ、パネルディスカッションを行った。</p> <p>活動事例・意見発表 (平石氏) 水源環境保全の事業として、愛川町と中井町で竹林整備を行っている。味覚狩り等のイベントもやりながら整備を行っている。 活動の成果として、約 4 h a の竹林整備と 林床植生の回復 独自の地域通貨を発行し、それを使って地域の特産物を購入することにより地域の活性化に貢献したことが挙げられる。</p> <p>(武川氏) ボランティアの形には 3 つあると思う。 行政からの要請に応える形 自らの意思で課題を定め、組織として実践して行く形 自由意志で集まり、捉われることなくことを進めていく形。ボランティア活動を支えるものは「褒められる喜び」。人が見てくれる場所で活動を行い、それを第三者から評価してもらうことで、そこに喜びを感じる。 会員間で森林整備至上主義、自然観察中心主義など方向性について色々なズレが生じるが、それら個別の取組を全体として捉えることで組織の活動としてはスムーズにいく。 「壮大な夢を描きながら森づくりに励もう」をスローガンに活動に取り組んでいる。</p>	

<p>内 容 (続 き)</p>	<p>(金子氏) 環境保護、森林保護のために単に寄付を行うだけでなく、プリウス購入者とともに植樹等の森林保護活動を行うため、1997年に「プリウス森木会」を立ち上げ、99年には第1号の県の水源地パートナー企業に登録した。この13年間で寄附3,800万円、参加人数延べ1,000名という規模にまで発展してきた。 今後はやどりき水源地を拠点に活動回数を増やし、他の水源地パートナー企業と催し等でコラボしていきたい。一企業として神奈川を元気にしたいという気持ちで取り組んでいる。</p> <p>(草開氏) 5年生は、総合学習で環境問題に取り組んでおり、体験を通して環境を学ぶ機会を年間で主に3つ設けており、その一つがやどりき水源地の見学。 やどりき水源地に行き、切り株や水生生物の観察を行う。自然を愛し、守っている森林インストラクターの方と行うことで、その経験がより豊かなものとなる。 子どもたちはこれらの体験を基に自分たちでテーマを設定、学習し、保護者向けに発表会を行う。 この環境への取組が将来を担う子どもたちの心に響くように今後も頑張っていきたい。</p> <p>パネルディスカッション 【継続的な活動をし、多くの方に参加していただくには】</p> <p>(平石氏) 「楽しみながらやる」ということが基本。自分たちだけで楽しむのではなく、異分野の方たちと一緒に楽しむ事が大切。</p> <p>(武川氏) 自分の興味・関心のみを突き詰めて行くのではなく、他のメンバーが興味・関心を持つ分野にも顔を出して行く。その中で、自分の得意分野を伸ばす。そうしていく事で団体としての多様性が生まれ、多様な人が関わりを持つ事が出来て、広がりが生まれる。</p> <p>【活動を市民に広げるために】</p> <p>(萩原氏) 人が動く、あるいは参加する動機とはどういうものか。それは「愛」、「義理人情」、そして「おもしろいかどうか」。見せることで、パフォーマンスを上げていくことで、多くの人を惹きつける活動を展開して欲しい。</p>
	 <p>コーディネーター (萩原委員)</p>
	 <p>パネリスト(左から平石氏、武川氏、金子氏、草開氏)</p>

第7回県民フォーラム準備委員の感想

井伊秀博	<p>前回に比べて倍以上の参加者を得たことを素直に喜びたいと思いますが、今回は組織に依存した結果だったと思いますので、この現実を踏まえさらに広く県民の関心を喚起するためには何が必要なのかを考える必要があると思っています。</p>
北村多津一	<p>平日の夜開催という制約にもかかわらず、多くの方々に参加いただいたことはよかったと思います。このようなフォーラムの開催では、やはり事前のアプローチと横のネットワークのつながりの大切さを改めて実感しました。</p>
木下奈穂	<p>NPO、企業、教育関係者、森林インストラクターと、様々な立場の人々の水源地環境への取組を紹介できて有意義なフォーラムでした。 参集者200人は大変よかったですと思います。より多彩な年代、立場の参集者を増やすことが、今後の課題と感じました。</p>
久保重明	<p>委員・事務局(準備委員会)の合意により、フォーラムは水源地環境保全・再生を身近に感じてもらうように市民と企業の活動報告を中心に組み立てられました。フォーラムが盛会であったのは準備委員会が一体となり、市民に参加を呼び掛けたことによるものです。</p>

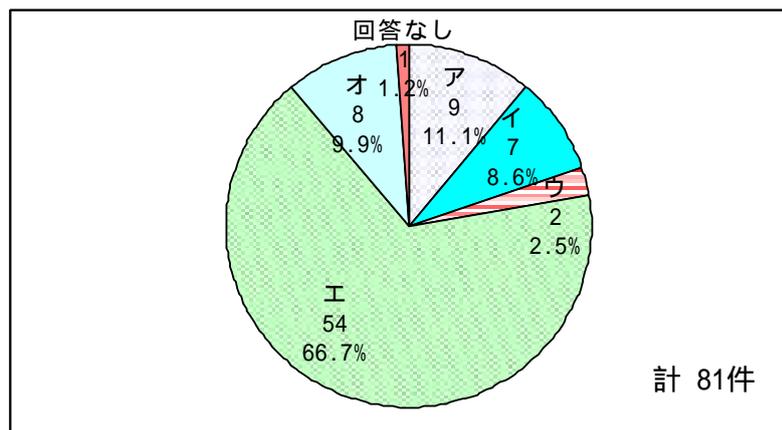
第7回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム
アンケート集計結果

今後の取組の参考とするため、フォーラムに参加いただいた方々にアンケート調査を実施したところ、多数のご回答をいただきました。集計結果は次のとおりです。

回収したアンケート...74枚

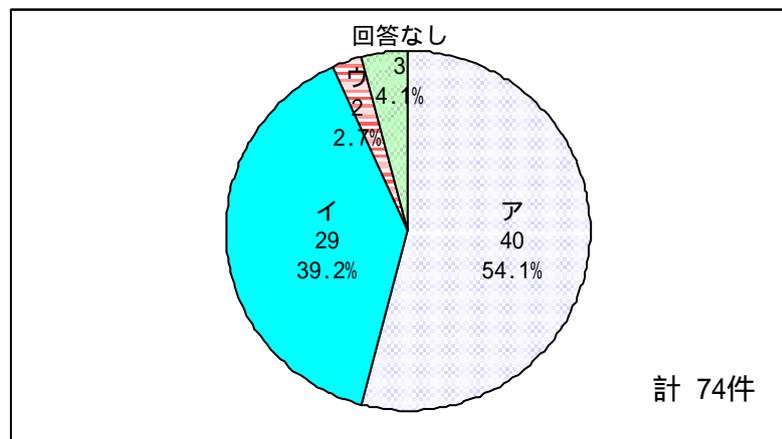
今後、水源環境保全・再生に関する情報提供を希望する方...21名

Q1 本日のフォーラムのことをどのように知りましたか。(一部複数回答あり)
ア 県のたより イ 公共機関での配布物 ウ 県のホームページ
エ 所属する団体を通じて オ その他



オ その他の主な内容
・ 知人から

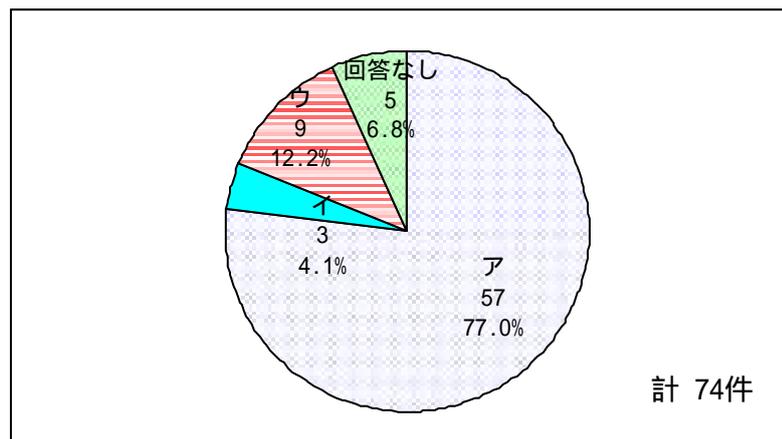
Q2 今回のフォーラムはいかがでしたか。
ア 良かった イ 普通 ウ 改善が必要



主な理由

- ア
- ・ 様々な立場の方から話が聞けて、大変勉強になった。
 - ・ 色々な活動を知ることができた。
- イ
- ・ パネリスト同士のディスカッションを聞きたかった。

Q3 今回のフォーラムを通じて水源環境を守る活動に興味がありましたか。
ア わいた イ わかなかった ウ その他

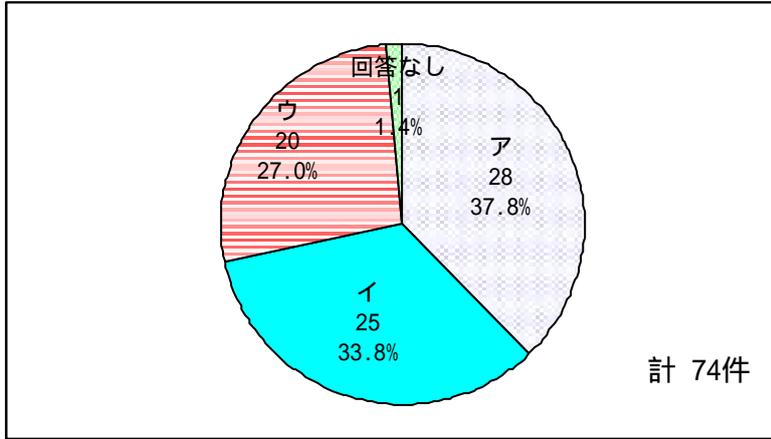


ウ その他の主な内容

- ・ 元々興味があった
- ・ 既に活動中

Q 4 今後、水源環境保全活動に関わる予定はありますか。

- ア 予定している イ 機会があれば参加してみたい
 ウ 特に予定はない

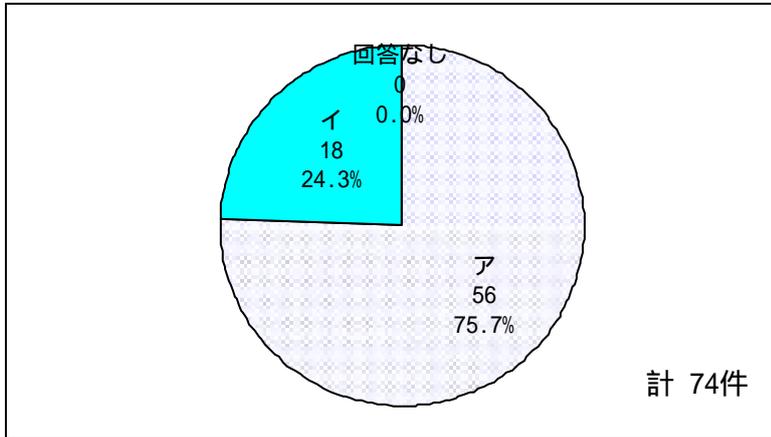


主な内容

- ア
 ・森林インストラクターとして活動
 ・森林整備
 ・植樹祭参加
 イ
 ・竹ファンクラブ
 ・植林、間伐活動

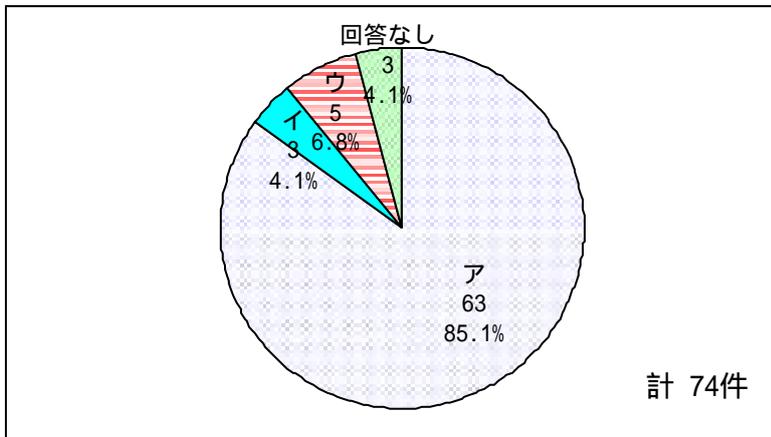
Q 5 「水源環境保全税」を以前から知っていましたか。

- ア 知っていた イ 知らなかった



Q 6 水源環境保全税で今後も市民団体の支援を継続して行くべきだと思いますか。

- ア していくべき イ やめるべき ウ その他



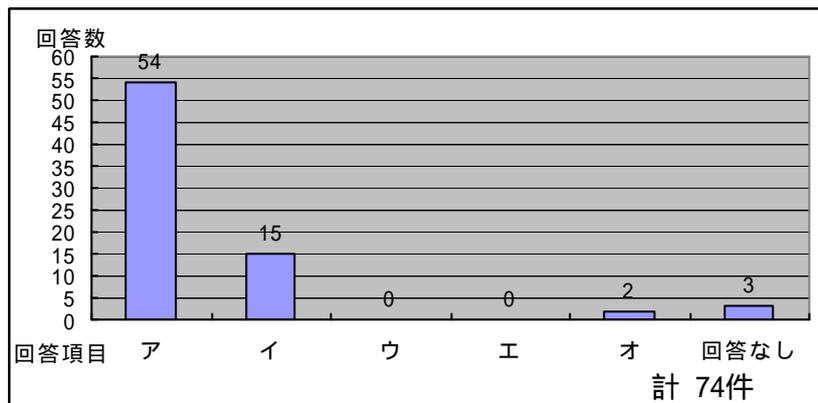
ウ その他の主な内容

- ・活動内容精査による支援は必要。
- ・基本的に継続していくべきだが、より税の用途等の情報を広く公開していくべき。

Q7 水源環境保全・再生施策は今後どうしていくべきだと思いますか。

ア さらに拡充すべき イ 現状維持 ウ 縮小すべき

エ 廃止すべき オ その他



オ その他の主な内容

- ・拡充すべきだが、活動をもっと多くの人に周知するのが先では？
- ・細かくみて、やめるなり進めるなりしていけばよいと思う。

第8回 (湘南・県央地域フォーラム)

水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム

「県民の大切な水、その水源の森をいかに守るか」—荒廃する水源林の現状と再生へのチャレンジ—

日 時：平成22年2月27日(土) 13:00～15:30

場 所：藤沢リラホール

～ プログラム ～

12:30 開 場

13:00 開 会

主催者あいさつ

水源環境保全・再生かながわ県民会議委員 柳川 三郎



水源環境保全・再生
イメージキャラクター
しずくちゃん

13:05 水源環境保全・再生施策 平成19・20年度事業実績
神奈川県 水源環境保全担当課長 星崎 雅司

13:25 パネルディスカッション

コーディネーター・パネリストから発表を行ったのち、今後の水源環境保全・再生施策のあり方について、皆様の御意見・御質問を基に議論を行います。

コーディネーター

木平 勇吉 (東京農工大学名誉教授、水源環境保全・再生かながわ
県民会議委員)

パネリスト

川手 隆生 (神奈川県野生生物研究会 副代表)

羽澄 俊裕 (丹沢大山自然再生委員会 委員)

川又 正人 (有限会社川又林業 代表取締役)

15:30 閉会

本日の配付資料

プログラム(本紙)、『かながわの水源環境保全・再生をめざして』、水源環境保全・再生事業説明資料、質問用紙(2枚)、『かながわ水源環境保全・再生施策大綱』、『かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画』、『神奈川県水源環境保全・再生基金への寄付のお願い』、『受動喫煙防止条例チラシ』、『全国植樹祭2010パンフレット』、アンケート用紙

主催 水源環境保全・再生かながわ県民会議

出演者を紹介します。

しずくちゃん



コーディネーター

東京農工大学名誉教授 ^{このひら}木平 ^{ゆうきち}勇吉

森林科学を信州大学、東京農工大学、日本大学で教える。その間、ニュージーランド森林研究所研究員、ワシントン大学・メルボルン大学訪問教授、国内では日本林学会会長、農林水産省の林政審議会会長を務める。

著書に『森林科学』（文永堂出版、2007）、『流域環境の保全』（朝倉書店、2002）など。日本農学賞、日本林学会賞、林業技術奨励賞を受賞。農学博士（名古屋大学）。

現在は、丹沢大山自然再生委員会委員長、神奈川県森林審議会会長、藤沢市みどり保全審議会会長、藤沢市川名谷戸保護団体代表、水源環境保全・再生かながわ県民会議委員など地域で活動。

パネリスト

神奈川野生生物研究会 副代表 ^{かわて}川手 ^{たかお}隆生

1993～96年度 丹沢大山自然環境総合調査鳥類班に参加。「神奈川猛禽類レポート 第1章 神奈川県のオオタカとその保護方策」（神奈川野生生物研究会編）執筆。

2004～05年度 丹沢大山総合調査鳥類班に参加。「丹沢大山総合調査学術調査報告書 第2章 生きもの再生調査 第2節 哺乳類・鳥類 鳥類（3）クマタカ（丹沢大山総合調査団編）執筆。日々丹沢にてクマタカの生態研究を実施、クマタカ保護活動に取り組んでいる。1998～2010年度 野生鳥獣保護観察指導員。

丹沢大山自然再生委員会委員 ^{はずみ}羽澄 ^{としひろ}俊裕

株式会社野生動物保護管理事務所代表取締役社長。東京農工大学農学部環境保護学科卒。環境庁（当時）5カ年プロジェクト「森林環境の変化と大型野生動物の生息動態に関する基礎的研究（1980～1984）」にプロジェクト研究員として参加。1983年に野生動物保護管理事務所を創設し株式会社として現在に至る。丹沢山地では20年以上にわたり、ツキノワグマ、シカ関係の調査に関わる。

有限会社川又林業 代表取締役 ^{かわまた}川又 ^{まさと}正人

林業を経営する一方、県知事認定の「指導林家」として地域の林業家や林業後継者の育成に尽力。全国・県の森林インストラクターとしてボランティア参加者の指導や、NPO法人の理事・事務局長として、森林整備や森林教室の開催。丹沢湖畔に体験フィールドを開設し、障害を持った方々との森林教室にも取り組んでいる。神奈川地球環境賞受賞、丹沢大山総合調査委員歴任、神奈川の森林林業の現場に立つ林業家として発信していく。

（敬称略）

【問い合わせ先】

事務局（神奈川県環境農政部緑政課）

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 電話：045(210)4324 F A X：045(210)8848

関連ホームページ「かながわの水源環境の保全・再生をめざして」

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/ryokusei/suigenkankyo/index.html>

かながわ水源環境保全

検索

水源環境保全・再生かながわ県民会議 活動結果報告

平成 22 年 2 月 27 日に開催した「第 8 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（湘南・県央地域フォーラム）」の内容は次のとおりでした。

名 称	第 8 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（湘南・県央地域フォーラム）	
	企画運営委員	岩淵聖、小林信雄、柳川三郎
開催日時	平成 22 年 2 月 27 日（土） 13:00～16:00	
開催場所	藤沢リラホール	
出席者	井伊秀博、井上信康、岩淵聖、片山幸男、木下奈穂、久保重明、倉橋満知子、木平勇吉（ 2 ） 小林信雄、高橋二三代、蓮場良之、増田清美、柳川三郎（ 1 ） 1 主催者あいさつ 2 コーディネーター	
参加者	131名	
報告者	岩淵聖	
内 容	<p>1．主催者あいさつ 柳川三郎委員 神奈川の水を育む水源林は荒廃してきている。しかし、多くの人が水は蛇口をひねれば、いつでも、いつまでも出るという気持ちで生活しているのではないか。 次世代に豊かな水を残していくためにも、今回のフォーラムで大いに学び、共に行動していきましょう。</p> <p>2．水源環境保全・再生施策 平成 19・20 年度事業実績 水源環境保全・再生事業の平成 19・20 年度実績について県・星崎水源環境保全担当課長から説明を行った。</p> <p>3．パネルディスカッション コーディネーター 東京農工大学名誉教授 木平勇吉 パネリスト 神奈川野生生物研究会 副代表 川手隆生 " 丹沢大山自然再生委員会 委員 羽澄俊裕 " 有限会社川又林業 代表取締役 川又正人</p> <p>コーディネーター・パネリストからの発表に引き続き、会場からの質問・意見等を踏まえ、パネルディスカッションを行った。</p> <p>コーディネーター・パネリスト発表 （木平氏） 水源環境を考えるにあたっては、どんな環境にしたいのか それをどのように実現するのかという視点が大切である。 天然林、モザイク模様の森、育てられた雑木林、下草で覆われた人工林などは水源の森としてたいへん良い。水源環境保全税の必要ない森を作ろう。</p> <p>（川手氏） 野生生物の観点から水源の森を見る事も大切である。 森づくりには多様な生物が関わっており、生物多様性に富む森こそ良い水源の森である。 その生物多様性の指標となる生き物がクマタカであるが、シカの食害など様々な要因で生息環境が悪化してきている。 施策大綱に記載があるように、生物多様性に配慮した森林整備が必要。</p> <p>（羽澄氏） シカが植生を食べ尽くすことで、他の動物の餌もなくなるし、水源の森にも悪影響。シカをどうするかが一番の問題。 シカはどんどん分布を拡大している。また、降雪量の減少などの要因でシカが大幅に個体数を減らすこともなくなった。</p>	



柳川委員

<p>内 容 (続 き)</p>	<p>生態系という視点で考え、シカの母数そのものを減らすとともに、時期的、地理的な面で森林施業とシカ管理を一体的にやる必要がある。このままでは丹沢は死の山になってしまう。 (川又氏) 神奈川県が担い手不足を解消するために、森林塾を創設したことは評価できるが、費用対効果に疑問がある。 間伐した木の半分は捨ててしまう。これを木質バイオマスとして活用すべきではないか。 森が生きもので溢れていることで森の健全性が保たれる。また、その生きものたちと暮らすことが林業の醍醐味。</p> <p>パネルディスカッション 【広葉樹に手を入れるのは疑問】 (川手氏) 広葉樹の森に手を入れることは、生物多様性に悪影響ではないか。本当に水源の森のためになるのか科学的検証が必要。また、手入れは地主の意向に縛られることもあるだろうが、行政はどこを水源の森として作っていくのかもっと考えるべき。森林整備の補助金で広葉樹林が伐採されているところもあり、用途の検証が必要、基本的に広葉樹に手を入れるべきではない。 【森林施業の技術の伝承、将来の見通しは】 (川又氏) 立派な木材を作るには3～4世代に渡って手を入れ続けなくてはならず、大変。林業に懸ける思いを伝えていけるか疑問だが頑張っていきたい。 【森林施業とシカ管理の一体化、具体的には】 (羽澄氏) 森林施業の計画は基本的に林班単位で行う。どの林班をいつ整備するか決めた段階で、植生の回復などにより、その周辺のシカ個体数増加が予想されるなら、そこで個体数調整を行う。単に整備を行うのではなく、シカの移動などを考慮したきめ細かな対応が今後は必要となってくる。マップとスケジュールが大事。 【パネルディスカッションまとめ】 (木平氏) 我々納税者の責任は意見を言うことである。言うだけでなく、自分の出来る範囲のことをやることも大事。現場を見て、意見を言うことで水源環境が良くなっていくだろう。</p>
------------------------	---



コーディネーター
(木平委員)



パネリスト(左から川手氏、
羽澄氏、川又氏)

第8回県民フォーラム企画運営委員の感想

<p>岩淵聖</p>	<p>これまでのフォーラムではほとんどなかった、水源の森に生息する動物からの視点での意見が出されたことは有意義であったと思うが、未だシカ以外の動物と水源の森との関連については、あまり理解されていない印象を受けたので、同様のテーマで再度実施したい。</p>
<p>小林信雄</p>	<p>水源の森林が荒廃している様子や再生へ取り組む現場を映像とトークで参加者へアピールし、意見交換できたこと有意義でした。森林の理解を広めるには学校教育の場で学習に取込む必要があるとの指摘が印象に残りました。猛禽類の強調は今回のテーマと違和感がありました。</p>
<p>柳川三郎</p>	<p>開催関係者および出演者等が必死に取り組む姿によって会場はボルテージがアップした雰囲気がつくられました。今回は生物多様性の重要性について意見が多く出されたが、基準は目指す良い水源の森づくりに努力をすべきとの必要の強調は底上げが図ることができたと感じました。</p>

第8回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム
アンケート集計結果

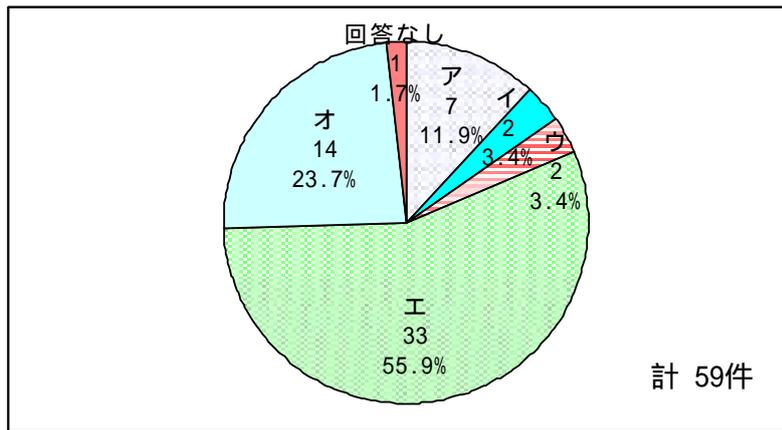
今後の取組の参考とするため、フォーラムに参加いただいた方々にアンケート調査を実施したところ、多数のご回答をいただきました。集計結果は次のとおりです。

回収したアンケート...57枚

今後、水源環境保全・再生に関する情報提供を希望する方...29名

Q1 本日のフォーラムのことをどのようにして知りましたか。(一部複数回答あり)

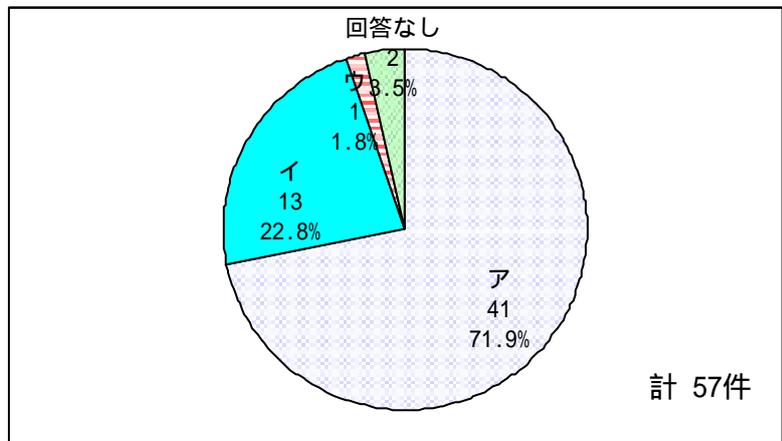
ア 県のたより イ 公共機関での配布物 ウ 県のホームページ
エ 所属する団体を通じて オ その他



オ その他の主な内容
・ 知人から
・ 神奈川新聞

Q2 今回のフォーラムはいかがでしたか。

ア 良かった イ 普通 ウ 改善が必要

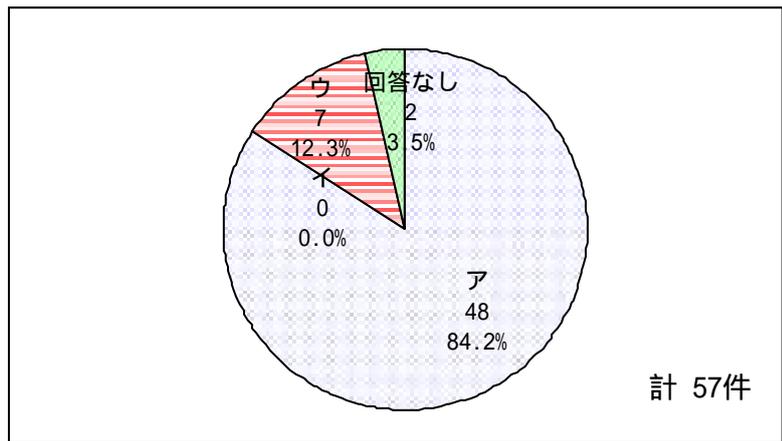


主な理由

- ア
- ・ 水源環境保全に係る実情がよくわかった。
 - ・ パネラーの方々のそれぞれの立場を踏まえた話、意見が面白かった。
 - ・ 生物多様性の重要性が良くわかった。
- イ
- ・ 県民の問題意識を喚起する方策が大事。
 - ・ もう少し科学的な話が聞けるかと思っていた。

Q3 今回のフォーラムを通じて水源環境を守る取組に興味・関心がわきましたか。

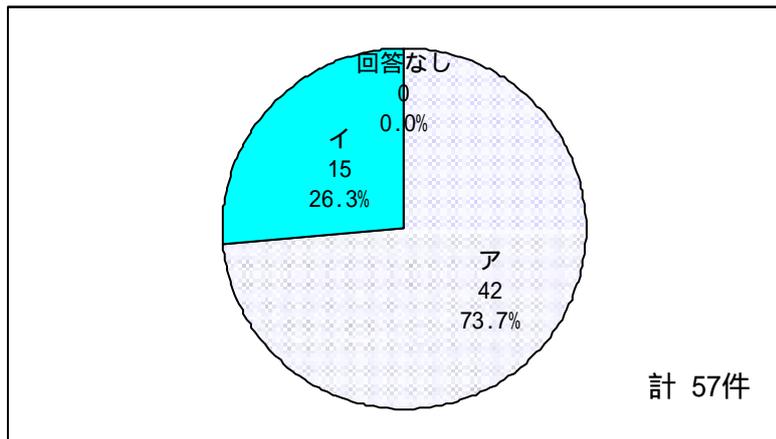
ア わいた イ わかなかった ウ その他



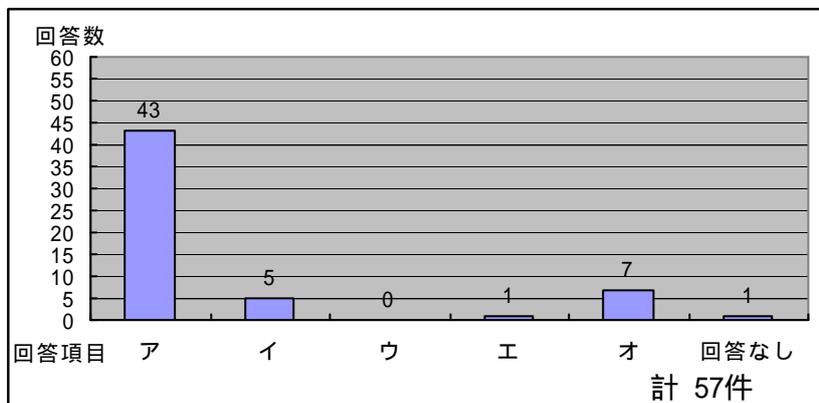
ウ その他の主な内容

- ・ 興味は前から持っていたのでさらに知りたい。
- ・ 各自講師が専門分野を話すのはよいが、全体をどのように実施するか問題。
- ・ 水源環境取組はメディアを通して宣伝すべきである。

Q 4 「水源環境保全税」を以前から知っていましたか。
 ア 知っていた イ 知らなかった



Q 5 水源環境保全・再生施策は今後どうしていきべきだと思いますか。
 ア さらに拡充すべき イ 現状維持 ウ 縮小すべき
 エ 廃止すべき オ その他



オ その他の主な内容
 ・効果測定と財源配分の見直し
 ・無駄な間伐が続くのなら止めてほしい
 ・税金の使われ方をもっと広報すべき

Q 6 この税の目的である水源かん養機能が十分発揮できる森林の保全・再生のためには何が
 必要だと思いますか。（例：森林整備の担い手確保、シカ対策のさらなる推進など）

- ・ 県民理解の向上
- ・ 環境教育の充実
- ・ 研究者との連携
- ・ 林業の担い手の生活向上
- ・ シカ対策
- ・ 現状の分析
- ・ 地球温暖化対策 など、45件の意見